

式 辞

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。特に家政科改めライフデザイン科としての卒業、本当におめでとうございます。

また、本日お忙しい中、ご列席たまわりましたご来賓の皆さま方、卒業生の晴れ姿をご一緒にお祝いしていただき、誠にありがとうございます。そして、何よりもここまで成長を支えてきた保護者の皆さま、本当にお子様のご卒業おめでとうございます。

さて、卒業生の皆さん、北陵高校で過ごした3年間はどうかだったでしょうか？

無風で過ごした人などいなかったはずですが。卒業文集を読みましたが、それぞれの思いが多く詰まっており、読み応えがありました。

その中で、高校3年間はメンタルを鍛える場だった。という記載がありました。まさにその通りです。この先、歩いていく人生の中で、高校時代が一番メンタルを鍛えられた、と思ってほしい。先生方は、それくらいたくさん課題を皆さんに与えてきました。

今、ここにいる皆さんはそれを乗り越えた人たちです。

その中で、最後に伝えたいことが2つあります。

まず、一つ目は、「優しい人になって欲しい」

これからの社会を生き抜くには、周囲の人から「一緒に働きたい」「感じが良い」と思われる振舞いをする必要があります。

「人は傷ついた分だけ人に優しくなれる」

これは、かつての卒業ソングの定番である海援隊の「贈る言葉」のフレーズですが、今の世の中は「傷ついた分だけ、人を傷つける」人が増えてきたような気がします。特にSNSから発信される匿名での悪口、罵り合いが後を絶ちません。これでは、私たちが気持ちよく過ごすことは程遠いことになります。

古来より、人は人によって鍛えられてきました。この点において、皆さんは大分鍛えられました。どの学校よりも、ぶつかり合いが多かったです。それを私たちは、目の当たりにしてきました。

また、今年の文集は、例年より、日常生活を大切な思い出にしている人が多かったように思います。もちろん部活動や修学旅行、帆丘祭、体育祭などの学校行事が記載内容に多いのはいつもの通りですが、読んでいて今年の文集は、何気ない学校の日常への思い出が多く書かれていました。コロナ禍で過ごした中学時代に日常の大切さを身に染みて感じていたのかもしれませんが。

話を戻しますが、世の中には問題が山積みです。なぜなのでしょう。

人の価値観はそれぞれだからです。大きな意味では国家の価値観もそれぞれだからです。

ささいな事が気になる人もいれば、全く気にならない人もいます。つまり、価値観は人によって違うという当たり前のことなのですが、一番学ぶのが難しいことなのだと思います。だから、衝突するのです。だから、生きづらいのです。この感覚を、早く身に付けた人が人生を豊かに大らかに過ごしていきます。

人によって価値観が違う、人は違って当たり前という感覚を早く身に付けてください。「優しい人になる」ということの第一歩は、人の価値観を認めることなのだと思います。

もう一つ伝えたいことは、『目的を持って生きる』ということです。

人生は目的を見つける旅と言われることもあります。目的こそが真の幸福を生み出すときえ言われています。

もうすでに持っている人は、それを達成するために全力を尽くしてください。

もし、まだ何も思いつかない人は、視野を広げるということを目標にしてください。

今年はいま年です。馬の持つあの非常に優しい目は350度の視野があるそうです。しかし、人間の目はどんなに頑張っても200度が限界です。今、両隣の人が視野に入りますか？問題に直面した時に、確かめてみるのも視野を広げる第一歩です。

先のイタリアで行われたミラノ・コルティナ冬季オリンピックにおいて、数々のドラマが生まれましたが、その中でもフィギアスケートの坂本花織さんは、銀メダルを取って引退表明をしました。彼女はその会見の中で「銀メダルは残念だけど、21年間本当にやり切った」と言っていました。25歳の彼女が21年間目的を持って生きてきた証拠です。だから、見ている人に感動を与えるのでしょう。

皆さんの活動も、私たち大人に感動を与えてくれていました。私の学校での好きな時間は北陵タイムです。あの時間は、皆さんの目が特に輝いていました。一生懸命に部活動やサークル活動に励む姿が感動を与えてくれていました。全国大会を目指して努力している人もいれば、自分のスキル向上に向き合っている人、友だちと楽しくボードゲームしている人、資格取得を狙い努力している人もいました。この3年間で結果を残せた人も残せなかった人も一生懸命に活動していました。努力していました。私は、歯を食いしばって努力している人に魅せられます。オリンピックという舞台とは違いますが、目標を持って活動していた皆さんから、豊かに生きるヒントをもらえました。

それは、「夢は大きく、目標は小さく」です。

小さな目標に向かい努力する積み重ねが、人を活性化させます。人を感動させます。オリンピックのメダリストと皆さんが積み重ねた努力の持つ重み・価値には何の変わりがありません。小さな目標の積み重ねの上に、大きな成功が待っています。

しかし、学校を卒業すると、与えられる課題は無くなります。

つまり、自分で見つけることからスタートです。

これが一番難しく、それが『目的を持つ』大切さだと思います。人生は、途中で彷徨いながらも、その都度、目的地を定めて進んでいくことが必要になってきます。

何でも良いです。小さな目標を定めてください。その積み重ねの上に、大きな夢の実現につながっていくはずですよ。

さあ、卒業です。高校時代にたくさんの失敗やぶつかり合いをした人たちは、本当に良い経験をしました。

卒業文集の中の言葉を借りるなら「修行イベント」が盛りだくさんでした。その彼はこう続けました。

「励ましよりツッコミ、共感より追い打ち、それでも笑いに代えられたのは私のメンタルと変換能力が素晴らしかったからだ」

なるほど、と思いました。「笑いに代える」素晴らしい考え方です。

皆さんへの最後の宿題です。この後、もう一度卒業文集をしっかりと読んでみてください。同じ学校で過ごした同級生の様々な価値観が溢れています。静かな表情の裏に多くの感情が入っていたことに気が付くはずですよ。

皆さんは、明日から口やかましく注意する先生たちとお別れです。皆さんには、多くの困難が待ち受けているかもしれません。そんな時は、北陵高校で過ごした日々を思い出し、周りの友人を思い出すことから始めてください。

結びになりますが、卒業の日を迎えられた皆さんの晴れ姿を目の当たりにして、誰よりも喜んでいるのは保護者の皆さまだと思います。

これまで、お子様の成長を支え、時には励まし、時にはそっと見守りながら、共に歩いてこられたことと思います。学業だけでなく、部活動や学校行事、そして日々の生活の中で悩みや喜びを分かち合い

ながら、今日の日を迎えられたことに、心より敬意を表したいと思います。

卒業生たちは、これから新しい世界へと歩みを進めて参ります。最近の天気のように変化の激しい時代になることは目に見えていますが、本校での3年間を乗り越えたお子様たちは、立派に成長しました。私たちは、卒業をもって遠くからの応援になりますが、保護者の皆さまには、これからも変わらぬ愛情でお子様を見守り、時には背中を押していただければ幸いに思います。

私たち教職員も、担任を中心に保護者の皆様と協力しながら、子どもたちの成長を支えてきました。時には連絡不行き届きのところもあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員を代表して、心より御礼・そして感謝申し上げます。

『人は幸せになるために生まれてくる』これも有名な言葉ですが、30年後、皆さんが必ず幸せになっていることを願い式辞の言葉とします。

卒業おめでとう。令和7年度卒業生のみなさん。

令和8年3月3日

茂原北陵高等学校
校長 永野 卓